

(学年) 第1学年 (教科) 保健

一斉学習

(単元) 交通事故の現状と要因

(本時のねらい)

交通事故の被害者や加害者のならないために交通事故の現状を理解し、要因を考える。

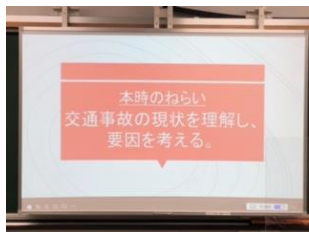
(ICT活用方法)

- ・電子黒板を用いてグラフや統計を映像に写し説明したり、グラフや統計から生徒に交通事故の現状を考えさせたりする。
- ・1人1台端末を用いて班での意見をまとめる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・起立し挨拶をする。 ・礼をする ・着席をする。 <p>・本時のねらいを知る。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">交通事故の現状を理解し、要因を考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発問1 どのような交通事故がある？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識や経験から意見を書き出す。 ・意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席者の確認をする。 <p>・本時のねらいを説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に写す。 <p>・1人1台端末に意見を書き出す。</p>
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の交通事故の現状を知る。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発問2 このように交通事故が起こる要因は何だろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で考えて意見を書き出す。 ・班の意見を発表する。 ・交通事故の3つの要因を知る。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発問3 発問2で挙げた要因は3つの要因のどれにあてはまる？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の原因を3つの要因に分ける。 ・班の意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の現状を説明する。 <p>・交通事故の3つの要因を説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板にグラフや統計を写す。 <p>・1人1台端末に意見を書き出す。</p> <p>・1人1台端末に書き出した意見を分類する。</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">交通事故の原因を知ることで交通事故防止や対策ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起立し挨拶をする。 ・礼をする ・着席をする。 		

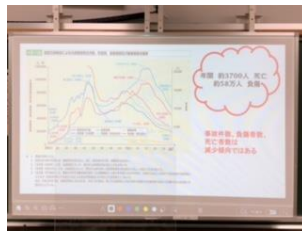
(授業の様子)



本時の単元



本時の目標



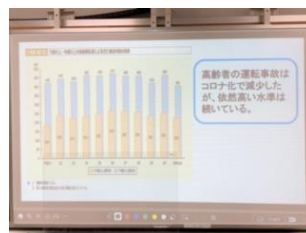
グラフと統計 (1)



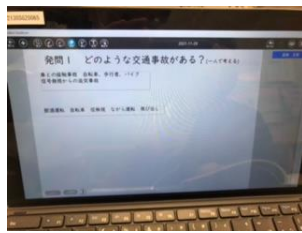
グラフと統計 (2)



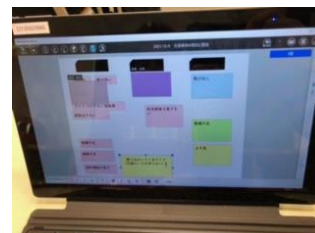
グラフと統計 (3)



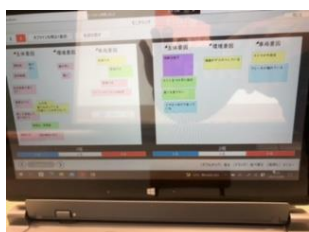
グラフと統計 (4)



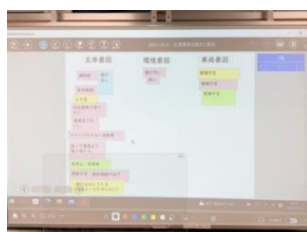
(発問1) どのような交通事故があるか



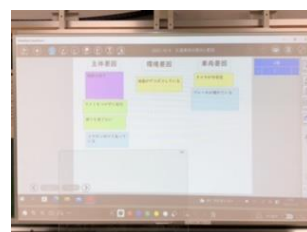
(発問2) 交通事故が起こる要因



発問3: 交通事故が起こる要因を3つに分ける



発問3 (1班の意見)



発問3 (2班の意見)

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

生徒は非常に興味を持って学習に取り組んでいた。本時の単元やねらい、グラフ、表を電子黒板に写すことで視覚的に理解し、さらに言葉での説明を加えることで聞いて理解することができた。また、授業支援クラウドアプリを活用し、意見を書いて共有したり、出た意見を班で分類したりした。知識を活用する活動ができ、考えを深めることができた。課題は、授業支援クラウドアプリの使用法に生徒が慣れていないため教員が説明しながら使用しなければならず、授業の内容をその時間深められないことである。また、授業支援クラウドアプリの動作が遅くなることもあり、通信面に課題がある。

改善を要する点には、1人1台端末の活用を生徒に慣れさせることと1人1台端末にある学習アプリを効果的に活用できるようにする。その上で、電子黒板を活用する箇所と1人1台端末を使う箇所をより効果的なタイミングと時間を見つけて生徒が主体的・協働的な学習をできるようにしていきたい。